

口腔がんのQ & A

Q 1 わが国において口腔がんにかかる人は何人くらい？

A 1 2005年における口腔がんにかかった人は約6,900人です。全がん中の1~2%を占めると推定されています。

Q 2 口腔がんにかかる人は、増えているのですか。

A 2 口腔がんに関する正確な全国調査は実施されていませんが、わが国における口腔がんの患者は増加していると推測します。1975年には2,100人でしたが、2005年には6,900人、2015年には7,800人になると予測されています。これは、全頭頸部がんの約40%を占めます。男女比は3:2と男性に多く、年齢的には60歳代が最も多いことがわかっております。高齢化に伴って口腔がんにかかる人も増加する傾向にあります。

Q 3 口腔がんのできやすい部位はどこですか？

A 3 口腔がんのできやすい部位は、民族、国、地域、生活様式ならびに習慣により異なります。わが国における口腔がんのできやすい部位は、舌で、口腔がん全体の約60%を占めています。

Q 4 口腔がんの危険因子といわれているものはありますか？

A 4 口腔がんの主な危険因子としては喫煙、飲酒が挙げられます。その他には、慢性の機械的刺激、食事などの化学的刺激、炎症による口腔粘膜の障害、ウイルス感染、加齢などが挙げられますが、疫学的あるいは実験的裏づけのあるものは少ないのが現状です。現在、喫煙が口腔がんにおける最大の危険因子と考えられているという記述もあります。

Q 5 口腔がんを早く見つけるために、注意した方がよい症状はありますか？

A 5 口腔がんの前がん病変として、白板症（はくばんしょう）や紅板症（こうばんしょう）があります。下記の写真を参考に、自分の目で直接見えるので、お口の中をセルフチェックしてみましょう。